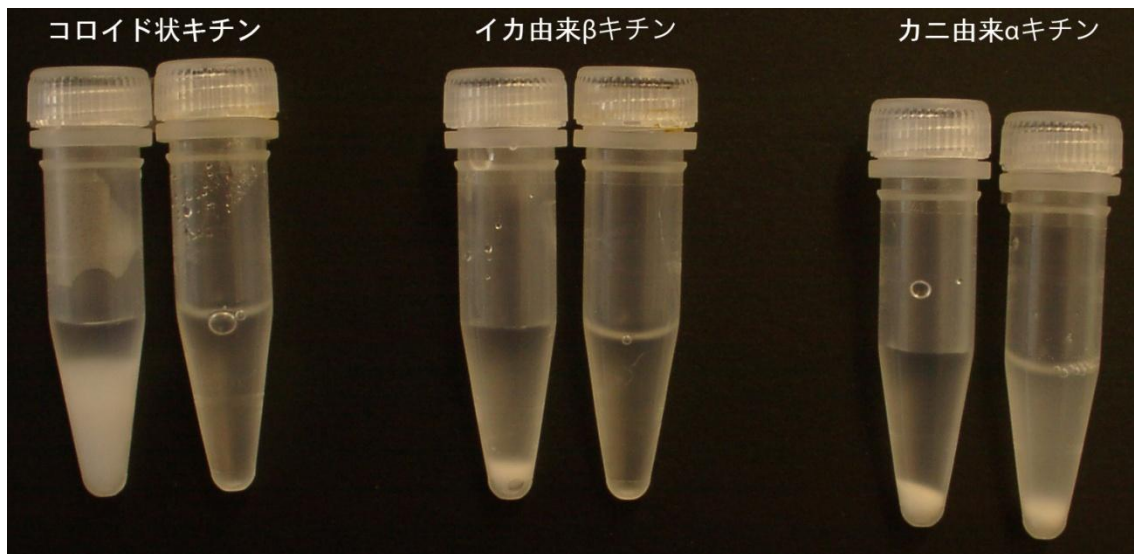


# Chitinase

弊社製品「**Chitinase**」を用いた、キチンの分解実験をご紹介します。

基質には結晶性の低いコロイド状キチン、および結晶性のイカ由来 $\beta$ キチン、カニ由来 $\alpha$ キチンを用いました。

それぞれの基質溶液(懸濁液)に、弊社製品「**Chitinase**」を添加後、85℃で反応させました。



それぞれ、左：酵素添加前、右：酵素添加後となっています。

コロイド状キチンは沈殿がなくなり、見た目ではっきり分かるように分解されました。

次に、結晶性のイカ由来 $\beta$ キチンですが、こちらもコロイド状キチンと同様に沈殿がなくなっていることから、分解されたことが確認できます。

一方、分解が困難といわれている結晶性のカニ由来 $\alpha$ キチンですが、上清に濁りが生じていることがわかります。これは、キチンの結晶構造に「Chitinase」が作用し、一部を分解した結果、キチンの重合度が低下したためです。

以上のことから弊社の「Chitinase」は、コロイド状キチンや $\alpha$ 、 $\beta$ 両タイプのキチンと、幅広いキチンに有効であることがわかりました。

**今回の実験に使用した酵素は、「製品酵素ラインナップ」よりご確認・ご購入いただけます。**